

## ○ドイツ側出席者

- ・カウダー・キリスト教民主・社会同盟院内総務（連邦議会議員）
- ・シュヴェージヒ連邦家族・高齢者・女性・青少年大臣
- ・ミュラー連邦経済協力開発大臣
- ・エーデラー連邦外務省事務次官
- ・カプファラー連邦経済エネルギー省事務次官
- ・フォン・ヴェアテルン在京ドイツ大使
- ・フォンドラン独日協会連合会会長
- ・ヴィースホイ日独産業協力推進委員会理事長

## ○総理挨拶の概要

- 昨年末のドイツの連立協定において、我が国のことをアジアの項目で最初に挙げ、「日本との友好関係は独外交政策の重要な柱」と言及。この記述は、ここにいらっしゃるカウダー院内総務の主導の下に書かれたと伺った。
- 本日、自分からは「ドイツとの友好関係は日本の外交政策の重要な柱」であると申し上げたい。自分の欧州訪問の最初の訪問地がベルリンとなったのは偶然ではない。今夜は日本と縁の深い皆様と過ごすことができうれしい。
- 自分の最後のドイツ訪問は2008年のハーファーマッセ。その際、技術と品質を重視する勤勉な職人に支えられる独企業の姿を目の当たりにした。このようなドイツ人を尊敬。
- この職人(しょくにん)気質(かたぎ)は、我が国にも相通ずる。両国経済の大きな強み。明日、日独中堅・中小企業セミナーに参加。その際、両国の優れた企業が互いに議論し、学び合うこととなっている。両国の中小企業が力を合わせれば、必ずや世界経済にさらなる貢献をすることができる。
- 日独間の協力強化のため皆様のような知日家のご活躍が不可欠。両国関係の緊密化に向けたご尽力をお願いしたい。
- 本日の料理は、日独折衷。今の季節の名物と聞くアスパラガスを、天ぷらにしている。日独が互いに良いところを持ち寄った食事と会話を楽しみ、日独関係の発展に思いを馳せて頂きたい。

ツム・ヴォール（乾杯）！